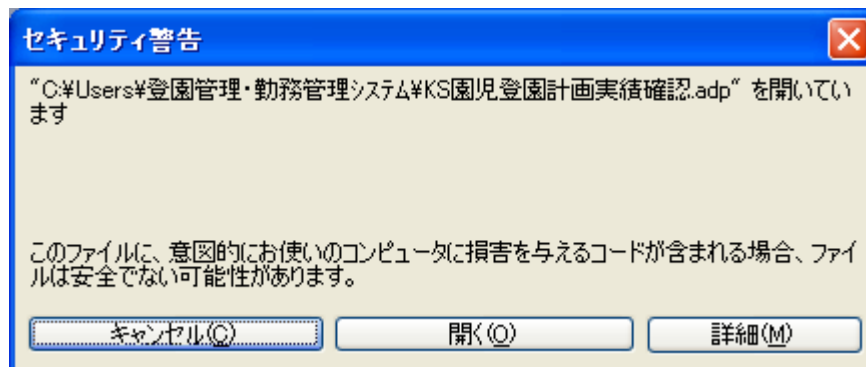


## 1. はじめに

Access 2003 を始め、Office 2003 商品群では VBA (Visual Basic for Application) とマクロが添付された文書やプロジェクトを開くと、デジタル署名のない場合、セキュリティ警告のダイアログボックスが表示される。



VBA やマクロに問題がない場合は、[開く]を指定することで、正しく文書やプロジェクトを開くことができる。[キャンセル]した場合は開かない。

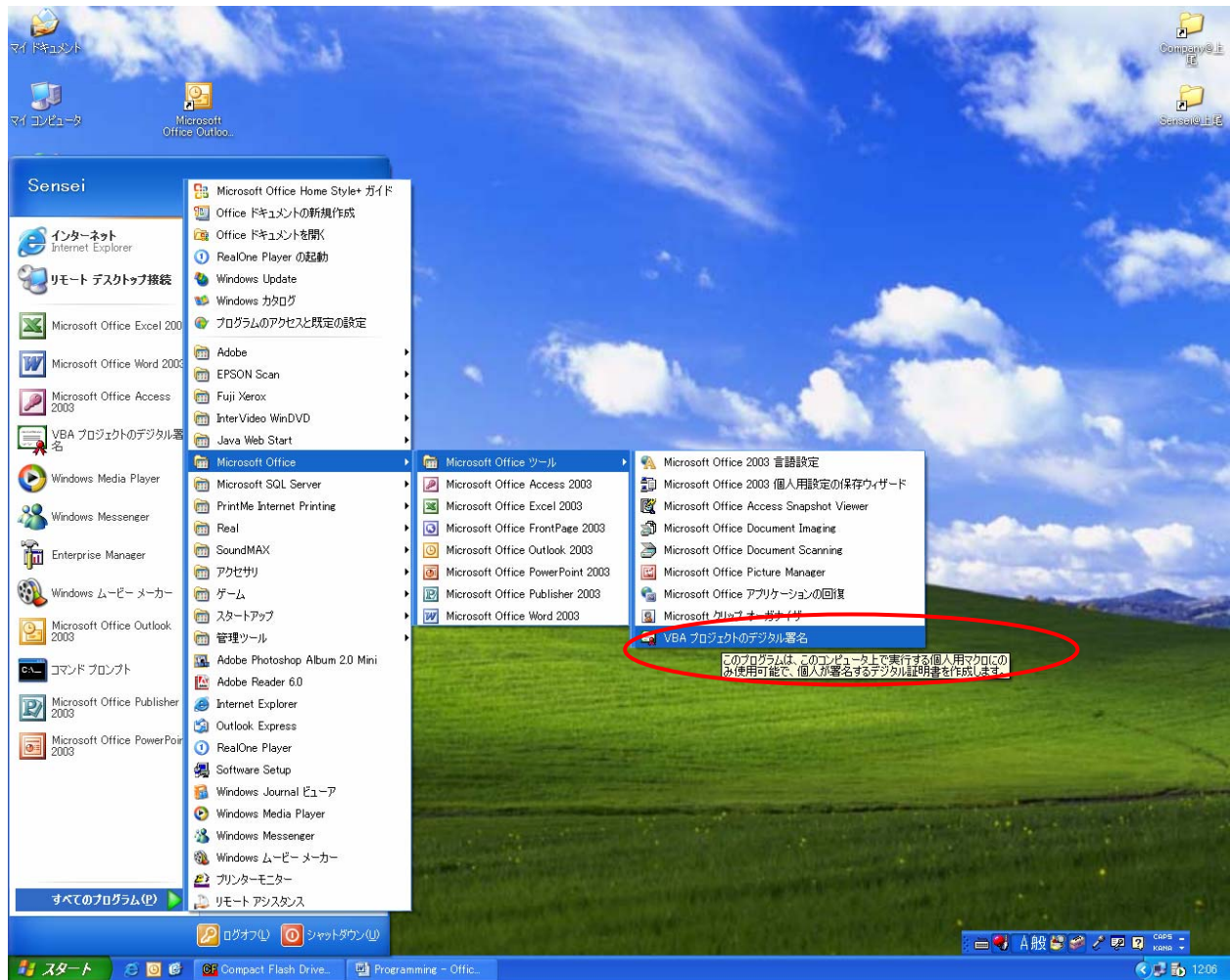
この状況に対して、「デジタル証明書」を付加することで、VBA やマクロが付いていてもセキュリティ警告無しで、文書やプロジェクトを開くことができるようにすることができる。

デジタル証明書には「信頼されたルート証明機関」あるいは「中間証明機関」により発行された、より信頼性が高いと考えられる証明書と、公的な裏付けのない社内用の「自己デジタル証明書」とがある。ここでは「自己デジタル証明書」を利用した場合のデジタル署名について述べる。

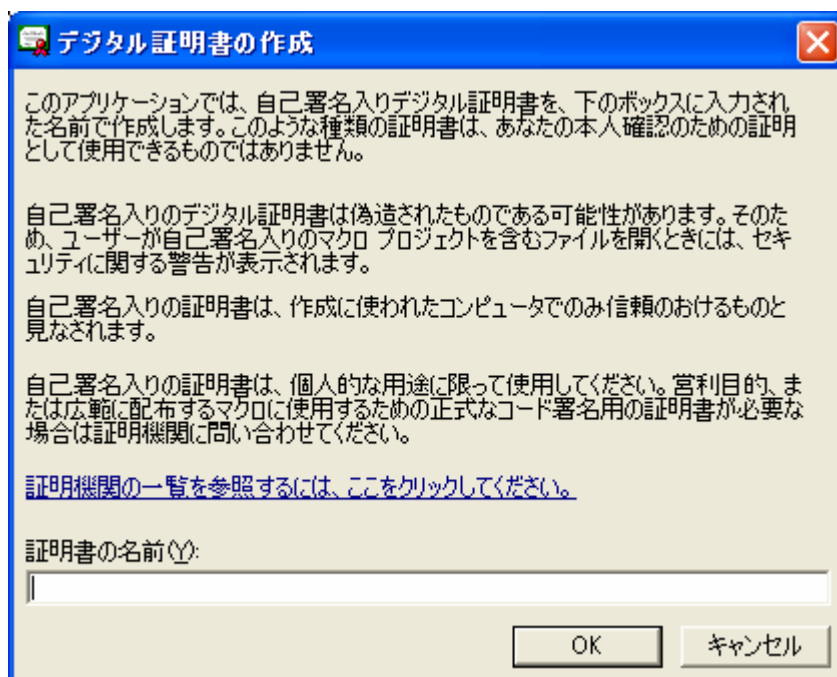
## 2. 自己デジタル証明書の作成。

「自己デジタル証明書」は文書やプロジェクトを開こうとするクライアントパソコン一台ごとに作成し、そのパソコンの中で署名することで、その文書やプロジェクトがそのパソコンの中に存在する限り、デジタル署名が有効になるものである。そのパソコンから取り出した場合は、そのデジタル署名は利用できない。

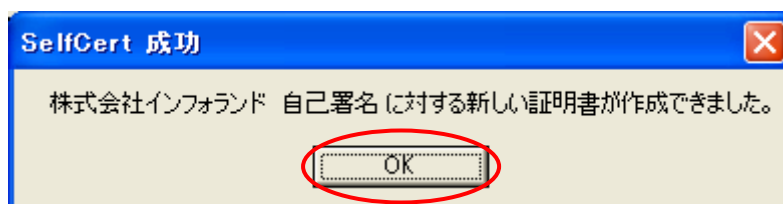
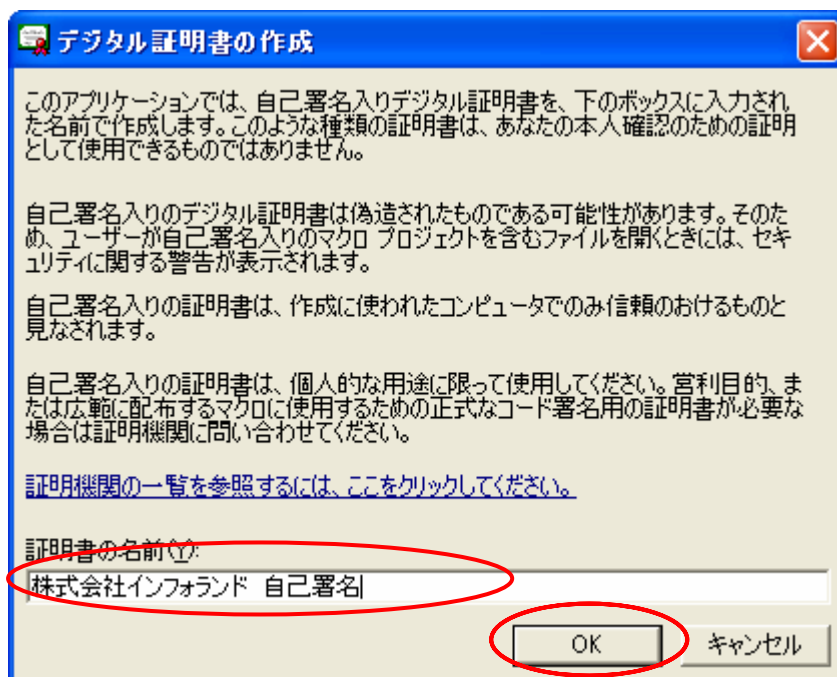
「自己デジタル証明書」は下記の手順で呼び出す、「Microsoft Office ツール」内の[VBA プロジェクトのデジタル署名]を実行することで作成できる。



[VBA プロジェクトのデジタル署名]を呼び出すと下記のダイアログが表示される。

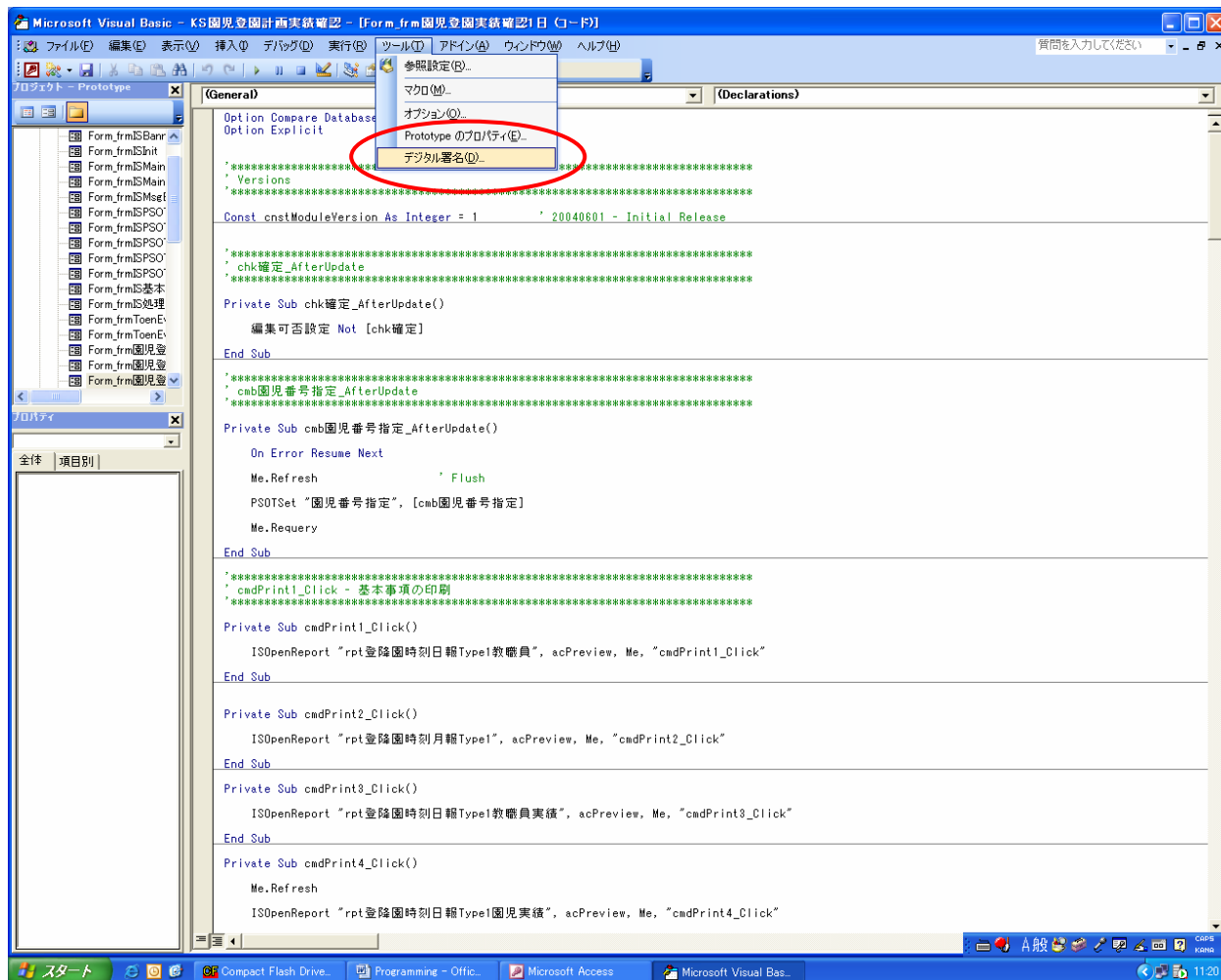


証明書の名前として「株式会社インフォランド 自己署名」を入力して[OK]を押す。これにより新たな証明書が作成される。

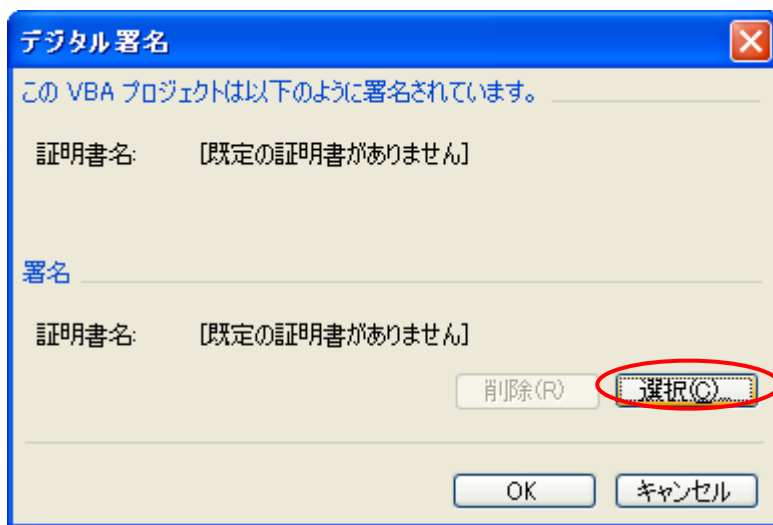


### 3. VBA やマクロにデジタル署名の実施

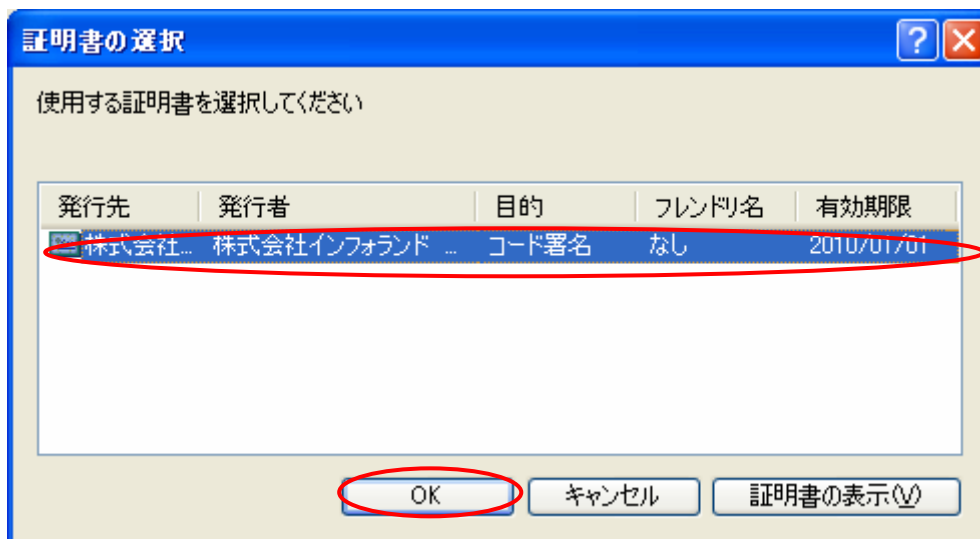
Office の VBA エディターを表示し、下記のようにして[デジタル署名]を選択する。



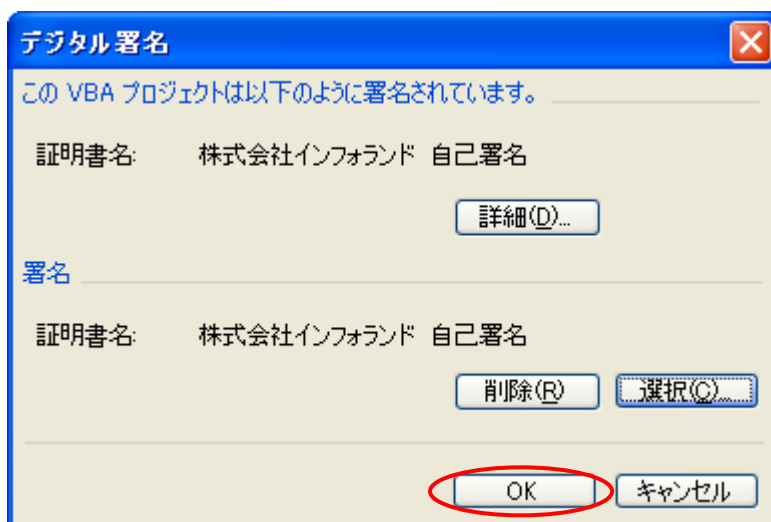
「デジタル署名」のダイアログボックスが表示されるので、[選択]を選ぶ。



「証明書の選択」ダイアログが表示される。そこには、先ほど作成した「自己証明書」が登録されている。その証明書を選択し[OK]を押す。

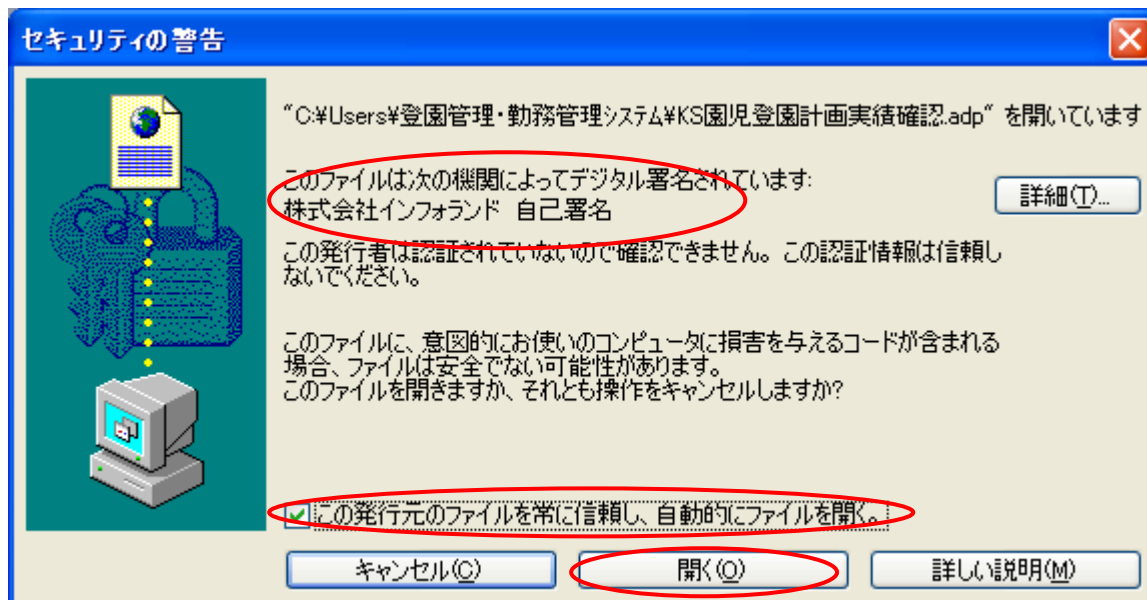


これにより VBA プロジェクトには下記のように「自己署名」が登録される



#### 4. デジタル署名の信頼と文書やプロジェクトのオープン

デジタル署名がされている文書やプロジェクトを始めて開くと、下記のような「セキュリティの警告」が表示される。これに対して、証明機関を確認の後、[この発行元のファイルを常に信頼し... ]をチェックして、[開く]を押す。これにより文書やプロジェクトは開くことができる。



今後は、1章の「セキュリティ警告」が表示されること無しで、この(VBA やマクロが付加された)文書やプロジェクトを開くことができる。